

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 3 区分

【発行日】平成 25 年 1 月 10 日 (2013.1.10)

【公開番号】特開 2011-120037 (P2011-120037A)

【公開日】平成 23 年 6 月 16 日 (2011.6.16)

【年通号数】公開・登録公報 2011-024

【出願番号】特願 2009-276119 (P2009-276119)

【国際特許分類】

H 0 4 M 1/02 (2006.01)

【F I】

H 0 4 M 1/02 C

【手続補正書】

【提出日】平成 24 年 11 月 20 日 (2012.11.20)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

第 1 筐体と、第 2 筐体と、前記第 1 筐体に連結されているヒンジ部と、
前記第 2 筐体に連結され、前記ヒンジ部とヒンジ回転軸を通して回転可能に連結されたヒンジ本体とを有し、
前記ヒンジ本体は支持部を内含し、前記ヒンジ回転軸は前記第 1 筐体と前記支持部に連結し、
前記第 1 筐体と前記第 2 筐体が開状態では、前記支持部は前記ヒンジ本体から突出し、
前記第 1 筐体と前記第 2 筐体が閉状態では、前記支持部は前記ヒンジ本体から突出しないことを特徴とする折畳み式携帯機器。

【請求項 2】

請求項 1 に記載の折畳み式携帯機器において、
前記ヒンジ本体は、前記ヒンジ部により回転可能に挟持されていることを特徴とする折畳み式携帯機器。

【請求項 3】

請求項 1 又は 2 に記載の折畳み式携帯機器において、
前記ヒンジ本体は副操作面窓を有し、
前記支持部は前記副操作面窓において、
前記ヒンジ回転軸の方向に垂直な断面の形状として、円弧形状部分及び前記円弧形状部分以外の部分を有し、
前記第 1 筐体と前記第 2 筐体が開状態では、前記円弧形状部分が前記副操作面窓から突出し、前記支持部を形成し、
前記第 1 筐体と前記第 2 筐体が閉状態では、前記円弧形状部分以外の部分が、前記副操作面窓と対面することにより前記副操作面窓から突出しないことを特徴とする折畳み式携帯機器。

【請求項 4】

請求項 3 に記載の折畳み式携帯機器において、
前記ヒンジ本体は、前記副操作面窓に対向する操作面窓と、前記円弧形状部分以外の部分に設けられた機能部とを有し、
前記第 1 筐体と前記第 2 筐体が開状態では、前記円弧形状部分が前記副操作面窓から突出

して前記支持部を形成すると共に、前記機能部が前記操作面窓から露出し、前記第 1 筐体と前記第 2 筐体が閉状態では、前記円弧形状部分以外の部分及び前記機能部が、前記副操作面窓と対面することにより前記副操作面窓から突出しないことを特徴とする折畳み式携帯機器。

【請求項 5】

請求項 3 又は 4 に記載の折畳み式携帯機器において、前記円弧形状部分以外の部分は平面形状部分であることを特徴とする折畳み式携帯機器。

【請求項 6】

請求項 1 ～ 5 のいずれか 1 項に記載の折畳み式携帯機器において、前記第 1 筐体と前記第 2 筐体が開状態と閉状態の間では、前記支持部の少なくとも一部が副操作面窓から突出されることを特徴とする折畳み式携帯機器。